

議事

学校法人順天堂が行う医師派遣の取組について

- ・ 学校法人順天堂が行う医師派遣の取組内容を示す文書（令和5年8月25日付文書及び令和5年9月8日付文書） . . . 1～3
- ・ （参考）令和4年4月20日付医療審議会答申 . . . 4
- ・ （参考）病院整備計画変更申請書 . . . 5～13



埼玉県
保健医療部長 表 久仁和 殿

令和5年8月25日

学校法人 順天堂
浦和美園新病院・学部等設立準備委員会
委員長 天野 篤

拝啓 残暑の候、貴職におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

令和5年7月11日付文書（保政第552号）により本学の令和5年度以降の具体的な医師派遣計画の再作成についてご依頼がありましたので、下記の通りご回答申し上げます。

前回5月の時と同様の回答内容となりますが、よろしくお取り計らいいただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 新病院開院前の医師派遣について

前回、5月29日付の文書で回答させていただきました通り、当該時期の医師派遣につきましては、派遣を希望される病院との個別の協議により具体的な医療ニーズと本学の人事に関わる派遣期間、勤務時間、報酬等の費用負担、医師の育成に関わる受け入れ態勢等々、派遣を希望される病院と本学との間での協議、調整により派遣が具体化されるものと考えております。

従って、現時点でご指示された回答様式により個々の病院への具体的な派遣の数字をお示しすることは困難です。

新病院開院まで及び開院してから新病院が安定稼働するまでの3年間の期間は、年間1～2名の派遣を協議により継続して実施することにいたします。

2. 新病院開院後の医師派遣について

新病院は、開院後の安定稼働が最優先となりますので、開院後3年間、すなわち令和12年度までは開院前の年間1～2名の派遣を継続し、その後、令和13年度から本格的な医師派遣を計画いたします。

具体的には、令和13年度より地域枠奨学金利用者の義務年限を終了する者が令和13年3名、令和14年7名、令和15年14名、令和16年21名、令和17年28名、令和18年35名、令和19年42名、令和20年52名、令和21年62名、令和22年72名と輩出されることから、この者を中心に派遣の仕組みを構築いたします。

もとより、義務年限終了後の働き方は個々人の自由意志でありますので強いてとどめることは出来ませんが、就学中は当該医師派遣の目的と意義を深く学び理解してもらい、卒後は本学の医局に所属して医師確保が必要な地域へ赴任してもらえる優秀な人材の育成、確保に努めてまいります。

しかし、現時点で、これら義務年限修了者がどの程度医局に定着するかは見通しが立ちませんので現段階で具体的な数字をお示しすることは困難です。

ここで改めて、医師派遣の拠点となる新病院の取り組みについて述べさせていただきますので、医師派遣に関わる事柄としてご理解を賜りたくお願い申し上げます。

- (1) 県北への医師派遣のみならず当該医療圏の医療機関との連携を考慮し最新の医療DXを活用した医療支援システムの導入を図ります。
- (2) 当該医療支援システムを活用して連携病院の機能向上を図るため、派遣する医師は一定の期間、新病院で研修することを義務化し、人材の育成に努めます。
- (3) 県北で期待される医師の育成のため、専門医に相応しい技術と経験を身に付けられるよう十分な教育支援体制を構築します。

以上



埼玉県保健医療部長
表 久仁和 様

令和5年9月8日

順天堂大学
医学部長 服部 信孝

将来的に実施する医師派遣に係る具体的な医師派遣の数について（ご回答）

謹啓 残暑なお厳しい折から貴職におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、医師派遣についての基本的な考え方を令和5年8月25日付けの回答文書で提出させていただきましたが、病院開院3年間後に実施する医師派遣について具体的な医師派遣の数を示されていないため、将来にわたって計画的・継続的な医師派遣の取り組みが行われるか確証が持てないとのことのご質問の趣旨に沿って下記の通り補足しご回答申し上げます。

謹白

記

先の回答文書では、令和13年度より誕生する埼玉県地域枠義務年限修了者の状況をお示しすると同時に個人の意思を尊重した時、具体的な派遣の数としてどの程度を確保できるか現時点で見通しを持つことは難しいとの回答をさせていただきました。

当該案件は、文部科学省における医学部定員枠内での地域枠制度が現行のまま維持される前提のもとで、地域枠義務年限修了者を中心に本学医学部附属病院全体の人事の枠組みの中で対応することにしておりますが開院3年後、5名程度からスタートして段階的に増やしてまいります。5～6年後には20名程度を目途に派遣を実現させるよう努力してまいります。

また、その後も地域枠義務年限修了者が累積してまいりますので派遣の数を増やすよう努力いたします。

以上

埼 医 審 第 2 号

令和4年4月20日

埼玉県知事 大野 元裕 様

埼玉県医療審議会 会長 金井 忠男

医療審議会の答申について

令和4年1月13日付け医第1110号で諮問のあった「病院整備計画の変更」については、下記の条件を付した上で適当と認めます。

記

- 1 申請者は令和9年（2027年）までに800床の病院を開設すること。
- 2 申請者は令和4年度（2022年度）中に医師の派遣を開始すること。
- 3 申請者は、具体的な月ごとのスケジュールを作成し、進捗状況を1か月ごとに報告すること。

病院の整備計画変更申請書



令和 4年 5月 13日

(宛先)

埼玉県保健医療部長

住所 東京都文京区本郷 2-1-1

氏名 学校法人 順天堂

理事長 小川秀典

平成30年3月28日付で承認のあった病院の整備計画について、下記のとおり変更を申請します。

記

1. 変更前の事業計画

①整備スケジュール (現在、作成中)

②開設する施設の種類の種類

病院建物	延床面積 90,000㎡ (うち I 期53,000㎡)
立体駐車場	延床面積 12,300㎡
医系大学院教育・研究施設	延床面積 6,600㎡
医療系学部施設	延床面積 10,000㎡
教職員・学生用宿泊施設	延床面積 10,000㎡
陽子線治療施設	延床面積 5,000㎡

2. 変更後の事業計画

①整備スケジュール (別紙資料(1)のとおり)

②開設する施設の種類の種類

病院棟	延床面積 90,000㎡
大学・大学院棟 (教職員・学生用宿泊施設を含む)	延床面積 26,000㎡
陽子線治療施設(さいたま国際陽子線治療研究センター)	延床面積 5,000㎡
立体駐車場	延床面積 15,600㎡
ヘリポート関連施設	延床面積 (屋外)

3. 変更の理由

新病院の整備計画につきましては、平成30年（2018年）2月に整備計画変更申請書を提出させていただきご承認をいただきました。

その後、行政、関係機関により患者の交通アクセス改善に大きく影響する渋滞緩和の社会実験や自動運転バスの検証などが行われました。これに合わせ、路線バスの構内走行路、綾瀬川周辺の遊歩道設置に並行したオープンスペースなど建築設計の根幹にかかわる検討を行ってまいりました。

一方で、学内の医師を含めたプロジェクトチームを設置して医療機能について検討を行い、令和元年（2019年）10月には計画推進のため医療コンサルタントを選定し、基本構想の共同検討作業に着手いたしました。

さらに、さいたま市地域医療構想調整会議にオブザーバーとして参加させていただき、圏域の医療事情、医師会や拠点病院の構想をつぶさに知ることができました。この中から、看護師だけでなくリハビリテーションにかかる医療従事者の当地での育成の必要性を痛感したところです。

しかしながら、新興感染症（COVID-19）の出現により、厳しい経営環境となりました。計画通りの進展が困難となり遅れが生じました。また、医療を取り巻く環境が一変したことから、経営の立て直し及びコロナ後の新たな病院機能の検討など、計画を一から見直しをせざるを得ない状況になり、当初の進展より大幅な遅れが生じてしまいました。

一方で、行政、関係各位のご理解のもと時間をいただいたことにより、埼玉県全域に対する医療の貢献、将来にわたり国内、国外に誇ることができるような先進的な医療、優秀な医師の育成、治験や研究に寄与する本学の新たなキャンパスとして整備していく明確なビジョンとミッションを定めることができました。

更には、今回コロナで分かった感染症に対する医療体制の脆弱さを克服し、県民、市民に頼りにされる感染症に強い病院を整備するとともに、現在、順天堂大学が取り組んでいる様々な企業との先進的な共同研究の成果を浦和美園の新病院に取り入れ、順天堂の持つ人材、病院運営経験を最大限活用して、患者さんだけでなく行政の要求に応えられる医療体制の構築への確信を得ることが出来ました。

加えて、さいたま市を中心とした地域住民の生活に貢献すべく、医療連携はもとよりスポーツ健康医科学を進める本学の取り組みを美園の地で展開してまいります。特に、公募条件である医師派遣については、埼玉県と協同し、地域のニーズにあった医師派遣を行えるよう、医師のFDにつとめ、日常的なサポートにIT・AI技術を最大限活用してまいります。この病院とキャンパスが国内、国外の学生、研修医、専門医、研究者が集う魅力ある拠点となるよう、順天堂の理念である不断前進の精神で取り組んで行く所存です。

4. 病院整備基本計画

(1) 病院の名称

順天堂大学医学部附属埼玉国際先進医療センター（仮称）

(2) 開設者

学校法人順天堂

(3) 所在地

さいたま市緑区・岩槻区 3区画約7.3ha

(4) 開設計画の具体的内容

①開設病院の基本方針

- a. 未来型の基幹病院を建設します
- b. 次世代型スマートシティの医療・ヘルスケアに参画し、医療関連産業も周辺に集まる可能性を模索します
- c. 常時の感染対策はもとより、パンデミックに際しても地域の保健行政に即応可能な施設・設備を備えます
- d. 最先端の診断・治療技術を提供します
- e. 次世代ヘルスケアシステムを構築します
- f. AIホスピタルの実現に向けた高度診断・治療ネットワークシステムを構築します
- g. 全方位的な臨床医学とスポーツやリハビリを融合させた予防・社会医学拠点の形成インバウンド再開後の海外患者の受け入れと国際的な医療・教育・研究施設を目指します
- h. 環境問題を考慮した先進的な建築施設計画を立案し、国際的な外部評価でも検証を行います

以上の基本方針のもと、埼玉県での医療受給バランスの改善と医療従事者教育とを両立させるとともに、埼玉県、さいたま市と協力して地域医療に密着し東日本全体を俯瞰できる高機能な医療機関を目指します。

また、年齢に関係なく国内外の幅広い有能な人材が集まる大学院、研究施設を併設し、埼玉県で不足する医師の育成・派遣が可能となる施設・機能の充実を図っていきます

②開設病院における医療機能

地域住民・医療施設の要請に応えるべく以下の医療機能の整備に努めます。

a. 救命救急センター機能

脳卒中、心疾患、外傷などの救急患者の受入体制を整備し、迅速、適切に対応

するため救命救急センター機能の充実を図ります。

(救命救急センター病床20～25床)

b. 小児救急機能

小児救急拠点病院として夜間救急を含む小児救急患者に適切な対応をします

c. 周産期医療

高齢出産の増加や周辺産科病院の減少を踏まえ、周産期母子医療センターを整備し、周産期救急やハイリスク分娩などに適切に対応します。NICUやLDRの整備に努めます

d. がん対策

地域がん診療連携拠点病院として外科手術、化学療法、放射線治療等がんに対する集学的治療を提供するとともに、低侵襲治療に取り組みます。チーム医療も推進し、総合病院としてがん以外の合併症を持った患者に対する医療も対応します

放射線診断治療の機能の充実を図ります。最先端治療機器を使ったがんの高度先進治療の提供を検討します

e. 災害拠点病院としての機能

BCPに基づき免震構造による建物を建設し、自然エネルギーを活用した水・電気等のライフラインを確保するとともに、敷地内に医療関係者の宿舎を整備して災害時における要員の確保を図り、災害拠点病院として県民の安心・安全の確保に努めます。

f. 最先端診断・治療機能

AIを活用したデジタル診断技術、ロボット技術、再生医療（人工組織、人工臓器）、低侵襲治療、地域医療との連携を含めた次世代ヘルスケアシステム等、最先端の医療の導入を検討して、若い医師が集う病院を目指します。

g. 感染症対応機能

コロナに遭遇した経験を糧に、再び新興感染症に直面した時に迅速に対応できるハード・ソフトを備えたパンデミックレディの機能を持つ病院を目指します

h. スポーツと医学の融合知による新たな予防医学機能

前スポーツ庁長官鈴木大地教授が機構長となり新たに発足した「順天堂大学スポーツ健康医科学推進機構」がコアとなり、スポーツと医学の融合による健康寿命の延伸に向けたウェルネスな生活、予防医療を育む環境を整え埼玉県が掲げる「スポーツがつくる活力ある埼玉」と埼玉スタジアムを中心とした浦和美園地区のスポーツ振興に寄与します

また、スポーツ振興に伴う性差を超えた医学的見地が高まっており、主として女性に関わる種々課題をターゲットにして問題解決する拠点整備を進めてい

きます。

i. 医療スタッフ養成支援機能

教育、研究、臨床研修、専門医や専門看護師の認定、総合医育成、検査技師の訓練、派遣先との調整、生涯を通じたスキルアップ、派遣医師の不安解消のための施設、設備機能の強化を図っていきます

j. オープンイノベーション機能

企業と連携して先進的な医療・医学研究が出来る研究施設を病院に併設して、浦和美園を中心とした産学連携拠点づくりを目指します

③病床数

一般病床800床

④診療科目（予定）

総合診療科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科、膠原病・リウマチ内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、メンタルクリニック、脳神経内科、小児科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、心臓血管外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸科、放射線診断科、放射線治療科、産婦人科、救急科、麻酔科・ペインクリニック、リハビリテーション科、歯科口腔外科、その他

・センター及び拠点病院（予定）

救命救急センター	周産期母子医療センター
災害拠点病院	小児救急拠点病院
エイズ診療拠点病院	地域がん診療連携拠点病院
さいたま国際陽子線治療研究センター等	

⑤施設・・・開設する施設の概要（病院の外、附帯施設も含む。）

・病院棟

鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階/地上9階建
病床面積 90,000㎡
免震構造

・病棟構成

病棟、手術室15～20室程度（ハイブリッド手術室を含む）、ICU、NICU、GCU、無菌室、感染症隔離室 等

・大学・大学院棟	延床面積	26,000㎡
・陽子線治療施設(さいたま国際陽子線治療研究センター)	延床面積	5,000㎡
・立体駐車場	延床面積	15,600㎡
・工期(別紙資料(1)のとおり)		

⑥設備・・・整備する設備の名称、用途の概要

・整備予定の主な高額医療機器

PET-CT	1台	
サイクロترون装置	1台	
MRI 1.5T	1台	
MRI 3T	2台	
ガンマカメラ	2台	
リニアック	2台	
RALS	1台	
サイバーナイフ	1台	
CT撮影装置(320列、64列)	4台	
血管造影撮影装置	3台	
手術支援ロボット「ダビンチ」	2台	等

⑦医療従事者等・・・人員計画の概要(医療従事者ごとの人数、医師の派遣計画)

・医療従事者数(予定)

医師	300名	
看護師	800名	
その他コメディカル	366名	
事務	117名	合計1,583名

⑧医師の派遣計画

埼玉県と協議を行い、医師不足地域への派遣については令和4年度中からの実施を具体化したします。今後、希望する病院が必要とする診療科や人材のマッチング、派遣の条件整備・待遇等について準備室を設けて県側との協議を速やかに進め対処してまいります。

⑨その他の計画・・・大学院の設置計画など

a. 医系大学院の設置

- ・大学院医学研究科(埼玉キャンパス)の開設
入学定員60名(総定員240名)

- ・設置予定の主な研究センター
 - さいたま国際陽子線治療研究センター
 - 遺伝子診断・治療開発研究センター
 - 先端ゲノム研究センター
 - 再生医療研究センター
 - 災害医学研究センター 他

b. 医療系学部の設置

- ・看護師・保健師養成学科（入学定員160名（予定））
- ・リハビリテーション要員養成学科（入学定員120名（予定））

c. 教職員・学生用宿泊施設

教職員（看護師・研修医・医師等）、学生、海外留学生のための寮及び国内外からの研究者の宿泊のための施設

⑩土地利用・・・敷地の概要（公図、周辺地図などを別途添付）

施設の配置状況（配置図などで明示）

別紙資料(2)を参照下さい。

⑪スケジュール・・・病床の使用開始までのスケジュール

工程表は別紙資料(1)の通りです。

整備スケジュール

基本計画（設計者選定含む）	～令和4年12月
基本設計（選定含む）	令和5年1月～令和5年12月
実施設計	令和6年1月～令和7年3月
建設工事	令和7年4月～令和9年5月
開院	令和9年内 800床開院

さいたま市保有

今後、基本設計を進める中で、医療機能、医工連携、スポーツ関連等について検討する

綾瀬川(一級河川)

河川上空通路

遊歩道

敷地境界線

遊歩道

ドラエリア

さいたま市保有敷地

埼玉県保有敷地

日影距離10Mライン

一般

液酸缶

大学・大学院棟

延床面積26,000㎡

地上9階

病院棟

延床面積 90,000㎡

地下1階地上9階塔屋

立体駐車場

747台

延床面積 15,600㎡

来院駐車場

863台

(94台)

流山橋下

22台

陽子線治療施設

地上3階

延床面積 5,000㎡

さいたま国際陽子線治療研究センター

約12M

駐車台数

立体駐車場 747

平面駐車場 383

駐車場(59台)

自転車置き場

タクシープール

駐車場 92台

さいたま市保有敷地

埼玉県保有敷地

ビッグモーター

レクサスCPO

S=1:1500